

1

(1)	気孔	(2) Q	イ	R	ア	S	ウ	(3) T	塩化コバルト紙	色	エ
(4)	エ	(5)	4.0 (4も可)	(cm ³)	(6)	0.6	cm ³				

2

(1) i	100	g	ii	160	g	(2) i	15	g	ii	245	g
(3) i	60	g	ii	⑤	(4) ①	51	g	⑨	53	g	

3

(2) 漢字1字指定 (5) 漢字2字指定

(1) ①	イ	②	ウ	(2)	海	(3)	カ	(4)	ア	(5)	中	秋
(6) ①	ア	②	ア	(7) ①	29.5 (小数第1位指定)	(日)	②	11 (整数指定)	(日)	③	3 (整数指定)	(年)

4

(1) 動物	C	特徴	ア	(2) 動物	B	特徴	オ
(3) 動物	B	特徴	ク	(4) 動物	D	特徴	コ

希学園 第376回 公開テスト 小5 理科 2023年9月10日実施 解説

1

試験管A～Eについて、水が蒸散、蒸発する場所をまとめると以下の表のようになる。

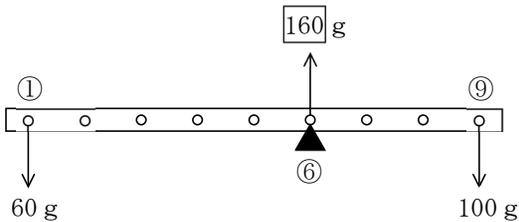
試験管	水面	茎	葉の表	葉の裏	減少量 (cm ³)
A	(0.4)				0.4
B	(0.4)	(1.2)			1.6
C	(0.4)	(1.2)		(1.2) × 4	6.4
D	(0.4)	(1.2)	(0.6) × 4		X 4.0
E	(0.4)	(1.2)	(0.6) × 4	(1.2) × 4	8.8

(6) 3時間あたりの1枚の葉全体からの蒸散量は、上の表より $0.6 \text{ cm}^3 + 1.2 \text{ cm}^3 = 1.8 \text{ cm}^3$ である。

1時間あたりの1枚の葉全体からの蒸散量は、 $1.8 \text{ cm}^3 \times \frac{1 \text{ 時間}}{3 \text{ 時間}} = 0.6 \text{ cm}^3$

2

(1)

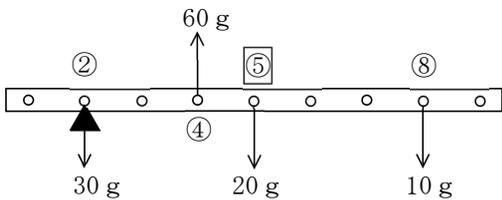


(i) 糸を通したところに支点をおく。

$$60 \text{ g} \times 5 = 100 \text{ g} \times 3$$

(ii) 上下のつり合いより、 $160 \text{ g} = 60 \text{ g} + 100 \text{ g}$

(3)

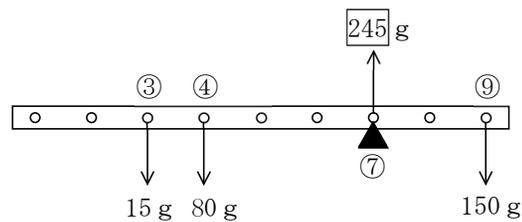


(i) 上下のつり合いより、 $60 \text{ g} = 30 \text{ g} + 20 \text{ g} + 10 \text{ g}$

(ii) ②に支点をおく。

$$60 \text{ g} \times 2 = 20 \text{ g} \times 3 + 10 \text{ g} \times 6 \rightarrow \text{⑤}$$

(2)

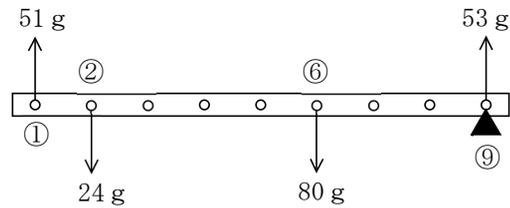


(i) 糸を通したところに支点をおく。

$$15 \text{ g} \times 4 + 80 \text{ g} \times 3 = 150 \text{ g} \times 2$$

(ii) 上下のつり合いより、 $245 \text{ g} = 15 \text{ g} + 80 \text{ g} + 150 \text{ g}$

(4)



① ⑨に支点をおく。

$$24 \text{ g} \times 7 + 80 \text{ g} \times 3 = 51 \text{ g} \times 8$$

⑨ 上下のつり合いより、 $51 \text{ g} + 53 \text{ g} = 24 \text{ g} + 80 \text{ g}$

3

(3)(4) 満月の1週間後は下弦の月である。下弦の月は6時に南中するので、東の空に見えるのは6時-6時間=0時である。

(6)② 満月は太陽と反対の位置にあるので、秋分の日付近では春分の日の太陽と同じ高さに見える。高すぎることも低すぎることもないので見やすくなっている。

(7)② $365 \text{ 日} - 29.5 \text{ 日} \times 12 \text{ か月} = 11 \text{ 日}$

③ $1 \text{ か月} (= \text{約} 30 \text{ 日}) \div 11 \text{ 日} = \text{約} 3$

4

(1) オオカマキリ、エンマコオロギ、ニイニイゼミ：不完全変態 クロオオアリ：完全変態

(2) サケ、ウナギ、アユ：一生のうち、川で生活する時期と海で生活する時期がある サンマ：一生海で生活する

(3) ヘビ、ワニ、カメ：ハ虫類 カエル：両生類

(4) ヤマネ、コウモリ、クジラ：ホ乳類 ペンギン：鳥類